

## 〈彙報〉

### 平成三年度 国文学科活動報告

#### 文学遺跡めぐり―飛鳥―

日時 平成三年五月二十九日(水)

行程 (長堀駐車場)―飛鳥資料館―石舞台古墳(昼食)―

飛鳥板蓋宮伝承地―入鹿の首塚―飛鳥寺―甘樫丘―甘

樫丘麓広場―(難波)

参加対象 国文学科一、二年生全員

平成三年度の文学遺跡めぐりは、隔年恒例の飛鳥見学として実施した。幸い天候にも恵まれ、教室で学ぶ萬葉集ゆかりの地や、古代史の舞台を訪ねた学生たちに意義深い一日となった。

―レポート―

今回の文学遺跡めぐりで、私は初めて飛鳥に行きました。最初に訪れたのは奈良国立文化財研究所飛鳥資料館です。資料館前に大きな石像があり、中に入るとまたそれとよく似た石人像が展示されていました。大きな石に二人の人物像が見事に彫刻され、その口からは、どのような仕掛けになっているのか、水が流れ出ていました。次に、石舞台古墳を見学しました。想像

していた以上に大きく、プリントによると基底の一边は約五十一坪の上円下方墳ということで、日本でも最大級のものであるというのもうなずけました。蘇我馬子の墓だと伝えられています。続いて、飛鳥板蓋宮伝承地を見学しました。ここが日本史でならった蘇我入鹿が殺された場所だ、ということですが、周辺があまりにもどかで、大化改新の事件は想像できない程でした。しかし、現地立ってみて、ここに歴史があるのだ、と感じました。そこからは田圃道を歩き、蘇我入鹿首塚と飛鳥寺に行きました。最後は、甘樫丘です。登る途中に、

采女の袖吹きかへす明日香風都を遠みいたづらに吹く

―志貴皇子―(巻一―五一)

の歌碑があり、甘樫丘にびったりだと思いました。もっとゆるやかな傾斜を想っていた私は、頂上までの山道で日ごろの運動不足を知らされました。丘の上からの眺めが素晴らしく、空気もおいしい良い所だと思いました。少々疲れたけれども、クラスのみんなど楽しく行動し、とても良い一日を過ごすことができました。(国2B 井上探紀子)

#### 国文学科講演会

日時 平成三年六月二十七日(木) 第五・六時限

対象 国文学科一・二年生全員

会場 南港学舎講堂

講師 元羽衣学園短期大学学長

吉永孝雄先生

演題 「近松門左衛門の作品―特に『冥途の飛脚』の演出について」

秋に国立文楽劇場で文楽鑑賞を予定していたので、今年度の国文学科講演会は、それに合わせて、長年文楽について研究されている吉永孝雄先生に講演をお願いした。先生は、約一時間半にわたって熟っぽく文楽の楽しさについて語られたあと、持参された人形を用いて操り方の実演をされた。ほとんどの学生は、実物の文楽人形を目のあたりにするのは初めてであり、大変楽しい講演会となった。

## 芸能鑑賞

日時 平成三年十一月二十二日(金)

午前十一時から午後二時五十分

場所 国立文楽劇場(大阪市中央区日本橋一―十二―十)

参加者 一年生一九三名、二年生二一四名、教員七名、助手二名、計四一六名

演目 文楽

「大経師昔暦」 近松門左衛門作

景事「紅葉狩」

文楽は、従来「文楽鑑賞教室」に行っていたが、今回は思い

きって本興行を鑑賞することにした。学生全員を強制的に、しかも古典芸能の鑑賞をさせることには、少なからず抵抗があった。同時に不安もあった。しかし、四時間という長時間にもかかわらず、学生達はわりと静かに鑑賞してくれたので、内心ほっとしたというのが本音である。これを機会に、一人でも多く、文楽を心底好きになってほしいものと念願している。

## 相愛萬葉ウォーク

—— 大津皇子の眠る二上山へ ——

第一回相愛萬葉ウォークを次のように行いました。

日時 平成三年十月十三日(日)

行程 近鉄当麻寺駅―当麻寺―萬葉歌碑―傘堂―二上山頂

(大津皇子墓)―加守神社―近鉄二上神社口駅

講師 北谷幸冊

対象 国文学科学生有志、卒業生、同窓会会員、一般。

相愛萬葉ウォークは、毎年実施の予定。平成四年度は、十月十一日(日) 近鉄 桜井駅集合(10時)、山の辺の道を歩きます。

相愛萬葉ウォーク―ふたかみ山へ―に参加して

第一回、相愛萬葉ウォーク(文学散歩の会)が、十月十三日に行われ、参加させて頂きました。国文学科在学中の学生、卒

業生、同窓会の方々を中心に当日小雨の降る中を、萬葉ウォークの好きな皆さんが心を一つに集まりました。

今回は、悲業の死をとげた大津皇子の眠る二上山に登る事になりました。

うつそみの人にあるわれや明日よりは

二上山を弟世とわが見む

—大伯皇女—

の歌を口ずさみながら登りました。普段の運動不足がたたり、呼吸も足も乱れました。二上山を仰ぎ見つつ、心の中で大津皇子の姉大伯はどんな思いでこの山を見、歌を詠んだのかと考えると胸がしめつけられる思いでした。そして、頂上に立つと、大和も河内も一望出来るはずでしたがもやがかかって何も見えませんでした。しかし、もやがかかっているので余計に大伯皇女の気持ちをしんみりと思い、頂上に立てたのだと思います。

そして、雨の降る中、傘をさしながらお弁当を食へ、その後北谷先生の解説を拝聴しつつ、しばらくの間学生に戻ったような気がしました。

下りは、土のゆるむ坂道をふもとの神社まで歩きました。

「あー登って良かった、良かった。」  
という気持ちでいっぱいでした。

二上山は我家からも美しく見える山です。一番美しく思うのは、夕日の沈む頃であり子供の頃からも学校帰り立ち止って眺めたものです。その二上山に登る事が出来、今回大勢の皆さんと共に心地よい疲れでお別れしました。

今回は、日本最古の道である「山の辺の道」へ、十月十一日（日）と決め計画を進めようと思います。次回を楽しみにしています。  
（国文学科 平成元年度卒業 大山裕子）